

発行所
 カトリック福江教会
 広報委員会
 五島市末広町 3-6
 ☎ 0959 (72) 3957
 ●ホームページ●
<http://fukuechurch.jimdo.com>

軛くびきと荷

主任司祭 中村 満

今年の夏休みは、新型コロナウイルスに振り回されたこれまでにない休みだった。七月末にやっと梅雨が明けたが、感染者が急増し各種行事も中止、自粛のため動きが取れなかった。特に子供たちにとっては短縮された夏休みで、海水浴もキャンプも遠出もない初めての夏だったことだろう。

夏休みの思い出はと問われると、最初に浮かんでくるのは、夏休みは一日しかなかったことである。学校の夏休みは通常通り四十日間程あったが、私の家の夏休みは、日曜日を除いて一日だったという意味である。というのは、我家は早

期栽培の稲を作っていたので、夏は稲刈りのシーズン。七月の下旬は稲刈りの準備のため、田の畦(あぜ)の草刈りや田の草取りなどをし、八月に入り、稲刈りを始めていた。一番多く作った時は一丁四反で、毎日、朝から稲刈りをし、干し、取り込み、夕方、耕運機に積んで倉庫に運んでいた。家の下段にも田んぼがあったが、そこは道路がないので人力で、背中に三輪か四輪、負ぶって運び上げていた。そんなこんなで、夏休みは農作業で忙しく、休みはなく終わっていた。中学生から神学校に行ったが、長崎に帰る前に父親がひと言、「よう

手伝ってくれたね、明日は休んでよかよ。」といて一日だけ休みをくれた。夏休み中の農作業、重労働で顔は真っ黒になっていた。神学校に帰ると先輩後輩から必ず「どこまで遊べば、そがん思うなっとかな」と冷やかされた。今になって振り返ると、あの夏の稲刈りの体験は金を出してでも行うべきものだったと思う。汗水たらして働くこと。労働の価値を、お金の価値を、休みの価値を身に沁み込ませてもらった。

「私の軛は負いやすく、私の荷は軽い」。年間第十四主日の福音朗読の箇所にあるものですが、軛と荷は、農作業を背景にして語られた例えです。軛は、田畑を耕すための農具を引く時や、荷車を引く時に二頭の牛(ロバ)の肩口に掛ける横棒の道具のことです(写真参照)。二頭で荷を引くと、より重い荷を引くことが出来るので、二頭が横に並び力を合わせて引くことができるように軛(横棒)を使います。

「私の軛は負いやすい」。キリストの軛が負いやすいのは、私の横にキリストが並んで一緒に引いてくれるからです。さらに、キリストの軛は「わたしがあなた方を愛



したように、互いに愛し合いなさい」という軛です。キリストの愛が私の横に絶えずあって、その愛に支えられて、キリストと一緒に荷を引くから軛は負いやすいのです。そうだとしたら当然、「私の荷は軽い」。重い荷があっても、キリストが片方を引いてくれるのならば、荷の重さは少なくとも半分になります。引く力も半分で済みます。リヤカーを引いたことがあれば十分想像できるでしょう。担い棒を想像しても良いと思います。二人で担えば肩にかかる重さは半分になります。片方を担ってくれるのはキリストです。だから荷は軽いのです。

周りの人々の大切さ

助任司祭 金 ボム

れた方は、既に
ご主人が天に召
されましたし、
七十年八十年ぐ
らい一緒にいた
友人の死によっ

小さいときから同じ町で育ち、また老年になっても同じ町で一緒に過ごしながら、交友していたある二人の方がいました。その二人の方の内、一人の方は足が不便で歩けないため、まだ動ける他の方がよく歩けない方の家に遊びに来ました。その付き合いはだいぶ長くて、七十年八十年以上なつたと思います。足が不便な方の家にわたしが遊びに行きました。その時も足の自由な方から来てくださり、一緒にお祈りし、お菓子を食べてながら、おしゃべりをしました。小さい時教会まで歩いて行った話やクリスマス時の出来事などを楽しくお話をしてくださいたり、わたしの話を聞いてくださったりしながら、楽しい時間を過ごした記憶があります。

しかし、突然二人の内一人の方が亡くなられました。その葬式に参加した残された一人の方の表情はともも言葉では言い難かったです。なぜ先に行ってしまったのか、あなたがいないわたしはこれからどうする、という表情のように見えました。残さ

て、完全に一人ぼっちになった感じでした。親しかった友人の死を経験したことのないわたしは、普段気軽く過ごしている自分の周りの人のことを考えさせられました。

わたしたちは自分にとって大切なものを、大切だと一次的に思うことはあるかもしれませんが、その大切さを心に染み込まれるほど感じることはなかなかないはず。その大切さを切に感じるときは、その大切なものを失ったときです。それがなくなつてから、その大切さを切に思ひ、忍びます。

今のわたしたちの周りには人がいます。その周りの人が配偶者や子供かもしれませんし、兄弟姉妹かもしれませんし、親戚かもしれませんし、友人かもしれませんし、教会や会社の仲間かもしれません。自分の周りの人がもたらす意味は、周りには他人という単純な意味ではありません。周りの人々は、一人一人が、人間として生きていくための人間性を保つてくれる存在であり、わたしたちに神様の愛、そしてイエス様の

姿を気づかせてくれる存在であります。普段は周りに人を気軽に接するか、周りの人に自分の思いのまま行動してしまうことが多いですが、その周りの人々によってわたしたち一人一人は支えられ、孤独や絶望から守られ、従来の神様の愛に気づかれます。「互いに愛し合いなさい」(ヨハネ4:7)と言う聖書の言葉の実践は、周りの人々の大切さを知ることから始まるのではないのでしょうか。

新型コロナウイルスの影響により、自宅で過ごす時間が増えていくため、「コロナ離婚」という言葉ができるほど、離婚が増える予測も増加しているそうです。夏休み、お盆を迎えたわたしたちが(特にわたしも)、この機会に自分の周りの人々を顧み、その大切さに気づき、愛の実践に励んだらいかげうか。



よろしく

お願いします!



評議会議長

岩下政利

前議長が御都合により途中退任され、約四ヶ月空白の間、副議長一人で、代行をしておりましたが、副議長の転勤で出来なくなつてしまいました。この時点で前議長の残任期間だけ：という中村神父様の要請があり、悩んだ末お引き受けすることに致しました。

現在まで、二十数年間は評議会に関わつては来ましたが、役員は、一年前に副議長を(その時も前任者の途中退任の為)経験しましたが、引き継ぎのないまま現在に至つていたので、役員の仕事の内容が未だに判らない事ばかりです。

ただ、今年には新型コロナウイルスの為、経験した事のない状態が続いています。御ミサも短縮され、恒例の行事も半分以上が中止になっていきます。ですが、家族の絆の大切さを感じている今だからこそ、信徒一人ひとりがカトリックの信仰を次の世代に繋げていく努力と協力が大切だと考えています。皆様の御協力をよろしくお願い致します。

こころ

小教区再編について

中村 満神父様

今般の少子高齢化社会の状況にあって、長崎の教会も同様の状態に直面し、今後どのように少子高齢化と向き合っていくか苦慮している。この現状を踏まえ、将来の教区像を描くために、先般、小教区再編プロジェクトが中村補佐司教を責任者に立ち上げられた。メンバーは、教区本部事務局、各地区司祭団の代表者で構成。現在、三回ほど会議がもたれ、地区からの再編についての意見などを吸い上げている。再編の動きは数年前からすでにあつたが、今回は正式に取り組まれることになった。しかし、少子高齢化、人口減の状況は各地区、小教区で異なり、一様に考えることはできないので、それぞれの信徒の意見を十分に聴き、慎重に進めるべきとの提言がなされている。



貝津教会 (三井楽)

教区全体の信徒数は、今年度は六万人を切った。おおよっぱであるが、昭和には七万数千人いたが、平成になって六万人台になり、令和になって五万人台に入ったことになる。統計では、平成の三十年間で約一万四千人ほど減少したことになる。司祭の叙階数も、近年一人か二人という状況で、司祭の高齢化を考えると将来の司祭不足は目に見えている。下五島地区で考えると、貝津、井持浦、浜脇は現在小教区ではあるが、司祭は常駐せず、実質は巡回教会である。今後の人口減、司祭減を踏まえ、どのように再編するかをシミュレーションする時が訪れていると言えるであろう。若い世代の人口減が人口増に改善するように、移住政策、島留学などに行政が懸命に取り組んでいるが、現状では少子化には打ち勝てない状況にあると言えるだろう。召命の減少も著しく、教区の小神学生は十人台で、一桁になるのも時間の問題といえる。召命の増加



井持浦教会 (玉之浦)



浜脇教会 (久賀島)

を望んでいるが、少子化には中々打ち勝てないのが実情だ。一方、集会祭儀の実施も視野にいれる時が訪れていると思う。現在、稲田祐馬助祭が福江教会に派遣されているが、井持浦と浜脇で月二回ほど週日のミサの時間に集会祭儀を行ってもらっている。再編の折にはこのような状況が各小教区でも起こるかもしれない。信徒が祭儀を司式するためには十分な養成が必要であるが、その準備も始める時が来ているとも言えるだろう。

※集会祭儀とは…主日に司祭が不在でミサをささげることができないときに、助祭、もしくは教区長によって任命された信徒の司会者によって執り行われる儀式のこと。(カトリック中央協議会HPより一部引用)

侍者服を新調しました!

お気づきの信徒の方も多いかと思いますが、子供たちの侍者服が新しくなりました。

五島市内でコロナウイルス感染者が発表されてから、夏休みの間は子供たちの祭壇奉仕がお休みとなってしまう、見る機会が少なくなった為、気づいてなかったという方もいるかも知れませんか。

以前の白と赤の侍者服もかわいらしくて良かったのですが、今回は白一色で引き締まった印象になりました。それに、木製の十字架の首飾りがとても良いアクセントとなっています。七月某日、ミサ後に子供たちが集まってもらい撮影したのが左の写真です。せっかくなので、マスクを取って(おしゃべりは一時ストップして)もらいました。素敵で、カッコいい侍者服を子供たちが気に入ってもらい、更に充実した祭壇奉仕になるといいですね。



改修委員会報告

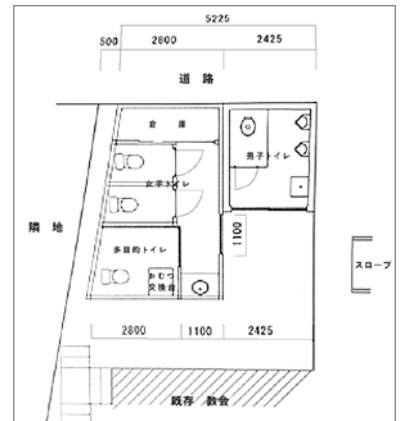
前号の広報誌「こころ」に掲載した通り、教会敷地の一部を明け渡し、た際に取り壊した倉庫とトイレについて、新しい倉庫とトイレの設置と、同時に教会敷地外構（ほぼ全周）のブロック塀の改修を進めるべく改修委員会が設けられ、六月十四日に第一回目の会議が開かれた。

当委員会は諮問機関として発足し、委員は主任司祭が指名した左記のメンバーで構成された。

- 会長 中村満神父様
- 委員長 宮崎猛
- 副委員長 小畑和男
- 書記 下崎和樹
- 会計 田端妙子
- 幹事 岩下政利 岩下忠義

六月二十八日に二回目、七月十九日に三回目の会議が開かれ、検討の結果以下の内容で改修が行われる事が決まった。

- ①トイレ設置について
(年度内完成を目指す)
場所…現在多目的トイレのある場所
大きさ…男子トイレ 小便器二基
大便器二基 女子トイレ 三基
(多目的トイレ含む)



新しいトイレの図面



教会外構のブロック塀は敷設後五十年以上経過しており、地震等で崩落の危険もある

- ②塀の改修工事について
基礎まで取ってからの工事となる
設計…フェンスの高さ2メートル以内とする
- ③倉庫について
場所…現在仮設倉庫のある場所
大きさ…縦2.5メートル
横7メートル

右記の内容で、各設備の細かな仕様等については今後の会議にて順次決めていく事となっている。なお、入札方法は見積もりによる随意契約となる。

お知らせ

1、敬老会について

毎年恒例の敬老会は、新型コロナウイルス感染症予防のため中止となりました。今年は、七五歳以上の信徒の方にささやかなお祝いを差し上げる予定となっています。

2、聖ミカエル中村神父様 聖シモン 稲田助祭様 霊名のお祝いについて

9月27日(日)二番ミサ後に祝賀式を行います。

3、初聖体式について

当初11月22日(日)に予定されていた初聖体式は、都合により11月15日(日)に変更となりました。

4、下五島地区親善スポーツ大会について

日時：11月22日(日) 10時30分から
場所：中央体育館(坂之上)



現在の仮倉庫

種目：ペタンク、綱引き、玉入れ
(予定)

参加者募集中です。詳しくは教会のお知らせ等で発表します。

5、地球環境保全の取り組み月間(9/1~10/4)について

教皇様の地球環境保全の呼びかけに応じて、海岸のごみ拾いを行うこととなりました。ぜひご参加下さい！

日時：10月4日(日) 13時から
場所：香珠子海岸(現地集合)

※軍手や火ばさみなど各自で準備をお願いします。天候不良等で出来ない場合は、10月11日(日)に実施予定です。

編集後記

「こころ」226号発行しました。皆さんいかがお過ごしでしょうか？今年コロナ禍で聖母祭などの行事も中止となり、また帰省した信徒の方も少なく、いつもと違う夏だったという方も多いかと思えます。今後は感染対策を行いながら、教区の行事等は行われる予定ですので、参加とご協力をお願いします。

次号は、十二月の発行を予定しています。よろしく願いいたします。